

## 出版情報

---

書名・件名	1994年 海外労働情勢
副書名	NIEs・アセアン諸国の経済発展と賃金変化
編集者・監修者	労働大臣官房国際労働課

---

## まえがき

「海外労働情勢」は、諸外国の1)経済及び雇用・失業、2)賃金・労働時間などの労働条件、3)労使関係などの動向と、それに対する各国の労使や政府、国際機関などの対応を分析・整理し、海外の労働情勢に関する情報を提供することを目的として、労働省が毎年とりまとめているものである。

1993年の「海外労働情勢」は、第1部「1992～93年の海外労働情勢」において、最近1年余りの北米、ヨーロッパ、アジア・太平洋などの労働情勢を概観している。

ここでは、

- 1) 世界経済は、欧米先進国のうちアメリカ、イギリスなどの景気は回復してきたが、ドイツ、フランスなどは依然回復の明確な兆しがみられず、こうした情勢を背景に雇用失業情勢は、アメリカが緩やかに改善したものの、総じて厳しい状況が続いたこと。一方、発展途上国のうち東アジア地域の経済は堅調な成長を続け、多数の不完全就業者等を抱えている国があるものの、概ね雇用の着実な増加が続いたこと。
- 2) 賃金は、欧米先進国で引き続き上昇を続けたものの、上昇率は景気の動向などを反映して多くの国で近年で最も低い水準になったこと。アジア地域では、物価上昇率が比較的高いものの、賃金の伸びは概ねそれを上回っていること。
- 3) 労使関係については、欧米先進国において労働組合組織率が引き続き低下するとともに、一部の国を除き労働争議が減少していること。アジアでは、韓国、シンガポールなどは落ち着いた動きとなったものの、タイで大規模な労働争議が発生するなどの動きも見られたこと。

などについて整理した。

また、第2部「アジアNIEs・アセアン諸国の賃金変化」では、経済発展の著しいアジアNIEs・アセアン諸国に焦点を当て、第1部でとりまとめた内容に加え、各国の賃金の推移と変化の要因、欧米主要国との賃金水準の比較、主な4カ国の賃金事情の分析を試みた。

すなわち、

- 1) アジアNIEs及びアセアン諸国の賃金水準の時系列的変化を見るとともに、名目賃金、実質賃金、賃金の労働生産性に対する比率の各側面から先進国と比較分析したこと。また、賃金上昇の要因の検討、労働生産性の上昇との比較を行ったこと。
- 2) アジアNIEs及びアセアン諸国のうち韓国、シンガポール、タイ、インドネシアの4カ国について、賃金の変化を経済発展の歴史に沿ってまとめ、各国の賃金決定に係る諸情勢を整理するとともに、産業間、企業規模間などの賃金格差について、その推移をまとめ、その特徴を整理したこと。さらに、韓国は賃金制度面での課題、シンガポールは80年代初頭まで賃金決定に大きな影響を与えていた全国賃金審議会の動き、タイ及びインドネシアは最低賃金制度とその運用状況などをまとめたこと。

がその主な内容である。

近年、国際社会における相互依存関係の深まり、我が国の国際的地位の向上に伴い、労働行政においても、国際的動向に即応した政策の樹立・実施に加え、技術協力や国際交流など国際協力の推進が一層重

要となってきた。また、企業・労使関係者を含む各界においても、その活動の国際的展開に伴い、海外労働情報へのニーズはますます高まっている。本書が、海外の労働をめぐる諸問題についての関係者の理解を深め、今後の労働分野における広汎な国際協力の積極的な推進の一助として活用されれば幸いである。同時に、今後とも各方面の御教示、御協力を得て、内容の充実に努めていきたい。

平成6年3月 明 五十畑 労働大臣官房国際課長

---

---

*(C)COPYRIGHT Ministry of Health , Labour and Welfare*